

[dōk]

DONC どんく

への員会

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F / Siege : Oden Building 21-4

Higashi Marunouchi Tsu JAPON

No 29 juillet 1994 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

まつり博出演のフランス民俗舞踊団 この秋 三重日仏協会が招請へ

この秋〈まつり博・三重'94〉にボランティア出演するフランスの民俗舞踊団を三重日仏協会が招請し、三重県滞在のお世話することになりました。この団体はボルドー市の南、大西洋岸のランド地方に古くから伝わる竹馬（実は木製）に乗った男性と民俗衣裳をつけた女性が、アコーディオンと笛の演奏に合わせてエネルギッシュに踊る〈ルウ・クラボ・ドゥ・セミセンス〉（少年少女を含む約30名）で、現地



来日する〈ルウ・クラボ〉と同種の竹馬舞踊団のアルカシオン湾国際文化協会を通じて、ぜひ三重県を訪問し県民と交流するとともに、まつり博にも出演したいと申し出があったもの。日本までの旅費は自費負担ですが、滞在中の経費とお世話をこちらで引き受けることとなります（費用についてはまつり博協会から多額の補助あり）。この種の交流事業は、三重日仏協会としては初めての経験ですので、会員の皆様と他の国際交流団体の協力も得て特別の態勢で取り組みたいと思います。

年会費の振り込みをよろしく！

郵送費の値上がりなどで事務費がかさむ一方なのに、会費の納入が滞りがちで、協会の財政がピンチとなっています。さらに今年度は上記のように、会として初めての大きなプロジェクトが予定されており財政の建て直しが急務です。どなたもとりあえず今年度分会費の振り込みをよろしくお願いいたします。

カナダの中のフランス語

小原ちさと

私は昨年9月から1年間の予定で、カナダのトロントで暮らしています。婚約者の研究留学が急に決まり、私自身は『伊勢志摩編集室』をやめて一緒に来たわけですが、二十年に一度のビッグイベント・御遷宮を前に仕事を離れるのは後ろ髪を引かれる思いであったのと同時に、カナダと聞いて「英語とフランス語を一度に勉強できる、これぞ一石二鳥!」と、学生時代からの夢を実現するべく旅立ったのでした。



英語フランス語両方を公用語とするカナダでは、電気製品などの説明書からガムの包み紙のような小さな物にまで、すべてに二カ国語の表示がされています。またテレビは約20チャンネルのうち、フランス語放送が3局ありますので、毎日の生活の中で自然とフランス語に触れることができます。

トロントは「人種のるつぼの町」と言われるように、実に多くの人々と出会うことができますが、実際に9ヵ月間暮らしてみると、町を歩いていてフランス語を耳にすることは、そう多くはありません。

トロントの人々にとってフランス語がどういう存在なのかよくわかったのは、私が彼らに「私たちは子供の頃から英語を勉強してきたけれど、実際には使う機会も少なく、流暢に話したり正確に聞き取るのは本当に難しい」と話すと、何度となく「それは全く私たちのフランス語と同じ」という答えが返ってきた時でした。

フランス国内でのフランス語というのは、料理・ワイン・映画・音楽・芸術・ファッションなど、五感で感じるものと密接に結びついていると思うのですが、トロントでは、ただ言葉としてのフランス語が存在するという感じで、例えば美味しいクロワッサンやバゲットを見つけるのも至難のわざなのです。あー、ドゥーセさんのパンがなつかしい!

フランスの香りあふれるケベック

トロントのあるオンタリオ州と北に隣り合って、フランス系住民が8割以上を占めるケベック州があります。「北米のパリ」と呼ばれるモントリオール、17世紀のフランスの町並みをそのまま閉じ込めてしまったようなケベック・シティが有名ですが、これらの町に足を一步踏み入れると、行き交う人々の会話はもちろん、通りや交通標識の表示、レストランの看板など、街の隅々にまでフランス語があふれています。

私たちが3月の終り頃、日本からの友人とともにケベック・シティを旅しました。古城のようなホテル「シャトー・フロントナック」に泊まり、美味しいフランス料理に舌鼓を打ち、久しぶりにフランス語にたっぷり触れて、ベストシーズンではなかったも

の、とても楽しいひとときを過ごすことができました。

生のフランス語をあまり聞いたことのない主人や友人たちは、ロマンチックな響きにすっかり魅せられたようで、タクシーに乗るたびに運転手さんはアランドロンだと錯覚し、レストランで食事をすれば、映画のエキストラで出演しているような気分になり、覚えてたの「Bonjour」や「Merci」をあちこちで連発していました。

城壁に囲まれたヴィュー（旧）ケベックと呼ばれる一画は、石造りの教会や家並みを縫うように細かい石畳の道がはりめぐらされ、中世のヨーロッパのような雰囲気、歴史の浅いカナダにあっては貴重な景観です。また一際高くそびえ立つ「シャトーフロントナック」の威容にも圧倒されます。ケベックを訪れる時は、少々高くついても、このホテルに宿泊するのがオススメです。

ケベックのフランス語

カナダを最初に支配したのはフランスですが、18世紀にはイギリスとの植民地戦争に敗れ、現在もカナダは連邦国であると同時にイギリス女王を元首とする立憲君主国です。そんな中、ケベック州は今も独立運動が盛んで、陸続きにありながら、この州だけが日常語としてフランス語を話しているのですから、フランス語を勉強するものとしては応援したくなりますが、独立が、ケベックにとっていいのか悪いのかは私には全くわかりません。

私がカナダに行くことが決まった時、ダメモ先生が「カナダのフランス語は歌うように発音するから分かりやすいよ」とおっしゃっていましたが、今思えば、フランス人である先生のこの言葉は、非常に寛大であるとしか言いようがありません。というのは、こちらに来てよく耳にするのは、「ケベックのフランス語は昔っばい、発音が少しおかしいし美しくない、フランス人さえほとんど聞き取れなかった」などなど……。それをフランス人から聞かされるのな

らともかく、フランス語を勉強したり住んだことのある、フランス以外の国の人たちがお国訛りあふれる英語やフランス語で口々にそういうのです。

残念ながら、私の語学力ではその差を認識することはできませんが、そういう話を聞くたびにちょっと複雑な心境になってしまうのでした。

ユーモアを楽しむフランス語のクラス

海外移住者を多く受け入れているトロントでは、ESL (English as Second Language) の制度が整っており、私も、毎日午前中英語のクラスに通い(無料)、フランス語は週に一度、会話のクラスを取っています。主に市民権を得るためや職に就くための人々が通うESLに比べ、フランス語の方は、仕事をリタイアし、生活に余裕のある中年の男女が多く、楽しい雰囲気のクラスです。

例えば、ESLでもフランス語でも、体の部位の表現を勉強しましたが、生徒同志で質問しあう場合、ESLだと「肩はどこですか、足首は、顎は？」と、まじめに質問します。ところが、フランス語のクラスでは、「あなたの舌を見せてください」「次はあなたの心を…」というような質問が飛び交い、「足の指を全部」と言われれば、答える方も靴を脱ぎ出します。

クラスでは英語も使われるので、私にとっては、まさに「一石二鳥」なのですが、現在のところ上達の方はイマイチで、どちらかと言うと「二兎を追うもの、一兎をも得ず」という諺の重みを感じている今日この頃の私です。

もしトロント方面にお越しになることがあれば、ぜひご連絡ください。(旧姓・小林ちさと)

Chisato & Hiroyuki OBARA
90 Dutch Myrtleway Don Mills
ONTARIO CANADA M3B312
TEL・FAX 416 - 510 - 2566

本会会員・針谷さん夫妻、菅原さんが出演

'94 平和のための音楽会 7/27

津市主催「平和を考える月間」への協賛事業として、今年も県下のすぐれた音楽家たちのボランティア出演による『平和のための音楽会』が開かれますが、三重日仏協会のメンバーからも、針谷斐子さん（ソプラノ）が針谷宏弥さんの伴奏で組曲「広島」から2曲、菅原美枝子さん（ピアノ）がショパンのマズルカ（op. 24）を演奏されます。ぜひご来聴を。

7月27日（水） 18：30開演 津市 お城ホール 入場料 600円（前売り500円）

ご本人もびっくりの急成長 <ドミニク・ドゥーセの店>

サブレ・ドゥ・フランスを増設

鈴鹿

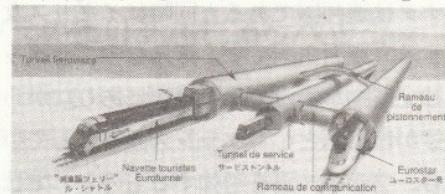
一昨年の初夏に独立、鈴鹿市白子駅の近くにきれいなフランスパンとケーキの店を開店した本会会員のドミニク・ドゥーセさん。その味と、日本人も驚く勤勉ぶりで最初から順調な業績でしたが、昨年秋には桑名市の大山田団地に桑名店を開業、そしてこの6月、鈴鹿の本店のすぐ近くにクッキーなどの製造を中心とした<サブレ・ドゥ・フランス>をオープンさせました。現在、ドミニクさん以外にフランス人3人を含めて従業員は約30人。ドミニクさんは「自分でも驚いています。皆さんのおかげ。今度の建物は余裕があるので日仏協会の料理講習や会合にも使って下さい」と話しています。

フランス便り (在日フランス大使館広報部発行) より

ユーロトンネル開通 EUROTUNNEL

近く パリーロンドン 3時間 一日25往復

英仏海峡の海底を通過してヨーロッパ大陸とイギリスを結ぶという18世紀からの夢が『ユーロトンネル』の完成で実現した。ユーロトンネルの開通式は5月6日に、ミッテラン大統領とエリザベス女王の臨席のもとで、仏・カレー、英・フォークストンの両ターミナルで相次いで催された。全長50km（海底38km、地上12km）、総工費870億フラン余。（5月号より）



第47回カンヌ映画祭各賞の受賞作

バルム・ドール (グランプリ)	「バルブ・フィクション (PULP FICTION)」クエンティン・タランティーノ (米)
最優秀男優賞	「活着 (生きる)」主演 葛優 (中国)
最優秀女優賞	「王妃マルゴ」ビルナ・リージ (イタリア)
審査員特別大賞	「活着 (生きる)」張藝謀 (中国)
監督賞	(仮題) 「太陽に灼かれて (UTOMLIONYE SOLNTSEM)」ニキータ・ミハルコフ (ロシア)
審査員賞	「日記 (CARO DIARIO)」ナニ・モレッティ監督 (イタリア)
脚本賞	「王妃マルゴ (LA REINE MARGOT)」バトリス・シェロー (フランス)
審査員奨励賞	「大いなる倦怠 (GROSSE FATIGUE)」ミシェル・ブラン (フランス)
カメラ・ドール新人監督賞	「死者の沈黙 (LES SILENCES DU PALAIS)」ムフィダ・トラトリ (チュニジア)
運営委員会賞	「死体と相談 (PETITS ARRANGEMENTS AVEC LES MORTS)」バスカル・フェラン (フランス)
短編映画賞	「大いなる倦怠」ピトフ (フランス)
審査員特別短編映画賞	「ヒーロー (EL HEROE)」カルロス・カレラ (メキシコ)
	「レミング・エイド (LEMMING AID)」grant・ラフッド (ニュージーランド)
	「シロップ (SYRUP)」ポール・アンウィン (イギリス)

(6月号より)